

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称：木下の保育園 江ヶ崎	種別：認可保育所	
代表者氏名：園長 石橋 静香	定員（利用人数）：78名	
所在地：神奈川県横浜市鶴見区江ヶ崎町16-27		
TEL：045-717-6313		
ホームページ：https://www.kinoshita-hoiku.com		
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2016年（平成28年）4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 木下の保育		
職員数	常勤職員：17名 非常勤職員：10名	
専門職員	（専門職の名称） 名	
	保育士：24名	栄養士：2名
	看護師：1名	
施設・設備 の概要	（居室数）6室	
	（設備等）ランチルーム、調理室	

③理念・基本方針

法人理念	生きる力を創る 子ども達に生きる力の基礎となる人間性を豊かに育みます。 園のシンボルマークである色鮮やかな葉をつけた木のように、 個性（葉）を尊重し、困難にぶつかっても心（枝）がおれないよう、 人としての土台（根）を培っていくような保育をおこなっていきます。
保育目標	協調性 仲間を大切にし、思いやりのあるこども のびのび 心身共にすこやかで、意欲的に活動できるこども 試行錯誤 最後まであきらめず、行動できるこども 探索活動 挑戦することを楽しみ、自ら表現することも
保育方針	協調性を持ち、他者を尊重し、認め合う心を育てる のびのびと自己表現が出来る環境を提供する 試行錯誤をする中で考え創造し、自分で判断する力を養う 探索活動を大切にし、こどもの興味や関心に寄り添う

④施設・事業所の特徴的な取組

保育環境づくりに取組む上で、保育園は様々な笑顔が生まれる場所であり、お預かりするお子様だけではなく保護者、スタッフ全ての人が笑顔であることが、お子様の成長になり、より、大事なことだと考えています。

・笑顔が生まれる場所

お子様の笑顔が生まれる場所であり続けるために、より良い保育環境づくりに取り組んでいます。

・子育てパートナー

お子様は「有能な学び手」保護者はお子様の「最良の教育者」良き子育てのパートナーとして保護者と連携し、地域社会の一員として貢献できる存在であり、お子様の成長を見守ります。

・コーナー保育と異年齢保育

園内に様々なコーナー遊びを設け、子どもたち自身が好きな遊びを選べる環境をつくっています。そして、0歳～5歳の異年齢の子どもたち同士が自然と触れ合うことの出来る環境になっています。自己肯定感を育み、10年後20年後の姿を想像し、日々保育を行っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和元年6月20日（契約日）～ 令和2年2月26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（ 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1)和食を中心にした丁寧な給食と食育を進めています

日本人の体に合った本来の和食の献立・一汁三菜を基本にした手作りの給食やおやつを提供しています。食材は、調味料においてはオーガニックで季節の旬の野菜や魚を使用しています。食品添加物や保存料などを省き、昆布、鰹節、椎茸のだしで薄味にし、子どもが生まれて初めて口にする素材の旨みや形を知る工夫に努めています。主菜は魚中心で赤身、白身、青魚等、種類も豊富に揃えています。食卓では切り身であるけれど、一尾で泳いでいることやそれぞれ違った魚を味わうこと、生態を知ること、命ある食材が自分たちの体を作ってくれていることなど、食育にも繋げています。

給食は、ビュッフェスタイルで異年齢で一緒に食べています。栄養士は子どもたちの喫食状況を把握し、子どもたちが食に興味を持ち、友だちと一緒に楽しみながらおいしく食べる環境づくりに努めています。

園の味噌造りは、発達年齢で出来る工程をそれぞれが体験し、全員で造る手前みそです。本物を体験する園の保育内容「遊びは学び」が、丁寧な給食や食育にしっかり反映されています。

2)保育の本質を理解した保育を追求しています

保育の本質を理解し意識を持って保育活動を行うことにより、活動自体の質が高められると考えています。保育者の配慮によって子どもの中から生まれる活動（主体的な遊び）に子ども自身の五感が働き、「遊びは学び」に繋がるとしています。

職員は子どもたちの発想や展開をWeb方式（蜘蛛の巣的な展開）で記録していき、確認しながら活動の意図を把握しています。それぞれの活動は、保育所保育指針の「幼児期に育ってほしい10の姿」を基本にしています。職員同士で評価、振り返りなど意見交換をしながら互いに学び合い、次の展望に繋げ、その日々の積み重さねを通して保育の本質の理解を深めています。園は、職員一人ひとりが正しい意識を持って保育を行い、より専門性の高い保育を行うことを目指しています。

◇改善を求められる点

1)実習生やボランティア受け入れのマニュアルの作成

ボランティアは、園と地域社会をつなぐ柱の一つとして大切な存在であり、実習生の受け入れも将来の保育人材との新鮮な出会いの場でもあります。園では、地域のボランティアから土の配合や種、苗から野菜づくりの指導を受けたり、絵本の読み聞かせや企業や団体から研修の協力も得ています。

また、近隣の中学校からの体験実習や保育士志望の実習生を受け入れた実績もありますが、園の方針とする受け入れの基本姿勢を明確にしていません。

今後は、標準化した受け入れの基準、事前説明、研修、プログラムなどの体制を整備し、外部の人材との良好な関係発展につながることを期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園4年目を迎え、初めて第三者評価を受審いたしました。

職員同士で話し合い、意見を出し合って保育理念について再確認できました。保育園全体運営の事も皆が知れる良い機会を与えてもらったと思っています。また、取り組んでいる活動やお子様の成長の様子を文章化していくことがとても大事であることが今後も必要だと改めて感じました。

保護者からの評価を受けて普段聞くことのできない真意に触れることが出来たことは、とても大きいと思いました。また、保護者の思いを職員間で共有し、改善に向けて取り組むことが明確になったので、今後の課題に活かして行きたいと思います。

第三者評価機関の方には、どのように改善していったらよいのか具体的で参考になりました。私達が自信を以て取り組んできたことが評価につながったことはうれしく思います。そして、何よりも職員の意識が高まり一人ひとりの意欲向上心に繋がっています。これからも職員一同で地域に根付いた保育園を作り上げれるよう取り組んでいきたいと思っています。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり